33. 高校生☆夏休み大作戦

活動分野	地域交流	活動に参加している障害者			
		障害種別	身体	年齢	18 歳未満
活動地域	岐阜県岐阜市とその近郊	実施主体〔NPO〕	名　称：NPO 法人　障害者自立センター　つっかいぼう 住　所：岐阜県岐阜市早田東町8丁目4－1　パセール長良1F3号 電　話：058-215-7374　　fax：058-296-5343		

活動概要

障害のある高校生と、障害のない高校生・大学生が交流し、その出会いと体験を通して互いにエンパワーメントしていけるような企画として、学校の夏休み期間中を利用して一泊二日の体験交流会を中心とする本事業を実施した。

本事業では、まず障害のある高校生に対し参加を呼びかけ、参加希望者には課題として作文を提出してもらった。そして、障害のない学生に対しては、介護技術等の事前研修を行い、交流会当日に備えてもらった。

体験交流会当日は障害のある高校生2名とサポートの大学生6名が参加、概ね次のようなプログラムを実施した。

1.宿泊体験（障害のある高校生が家族以外の人（大学生）の介助で一泊二日を過ごす）
2.フィールドトリップ（バリアフリーチェックをしながら、電車やバスに乗って買い物に行く）
3.若者同士の交流
4.障害のある先輩との交流（障害のある人の家の訪問と会食）
5.「人生の先輩」との会談
6.その他、普段できない体験をする

活動を始めた背景・経緯

高校生といえば、学校の勉強だけでなく部活動や趣味に打ち込んだり、友人たちと時間も気にせず遊んだり、恋をしたり…と、実に多忙で多感な毎日を送るものである。しかしながら、障害のある高校生もそんな風に高校生活をエンジョイできているのだろうか。介護する家族に遠慮し、あるいは障害があることに劣等感を抱き、自分の思うように行動できないでいる人もきっと少なくないのではないか。また、障害のない同年代の若者と比べ社会との接点が少なく、圧倒的に社会経験の機会が乏しい傾向にある。

そこで後記の目的を達成すべく本事業を実施した。

活動目的

障害のある高校生が、障害のない同年代の若者たちと過ごし、出会いと体験を通して一高校生として生活する喜びや自信を再認識し、将来障害当事者としてより充実した人生が送られることを願って開催する。

また、サポートする障害のない若者たちも含め、すべての参加者がここでの出会いと体験を通して互いに影響を受け、エンパワーメントしていくことを目的に開催する。

活動の成果又は効果

体験交流会での出会いと体験を通して、障害のある学生とサポートの学生の相互理解が深まった。また、フィールドトリップや障害のある先輩たちとの交流を通して、街づくりやこれからの人生について視野が広がってきている。

活動を継続する上で工夫した点

学生に対し事務局が一方的に指示を出すのでなく、彼ら･彼女らからの意見も取り入れながら準備を進め、やり遂げた時の達成感を共有できた。そして体験交流会の後にあらためて交流会を行い、関係の継続と拡大を図る予定である。

活動を継続する上での課題

当初、高校生同士の交流を企図したが、日程等が合わず一般高校生に参加していただくことができなかった。一般高校生にも安心して参加していただける信頼と、参加したくなる魅力が本事業に求められている。

また、資金面で厳しいので、何らかの方策を講じたい。

共生社会実践活動として今後予定しているもの又は実施してみたいもの

高校生･大学生を対象とした交流会を 12 月下旬に計画している。

今回は、彼ら･彼女らと同年代の障害のある人を交え、より身近な視点からの助言や意見交換がなされることを期待している。

実施体制

事務局1名、サポートの学生2名を中心に運営。法人の自立支援部門のスタッフがバックアップした。

キーワード

高校生、体験、エンパワーメント

34. 青少年福祉ボランティアリーダー育成研修会開催事業

活動分野	地域交流	活動に参加している障害者			
		障害種別	知的	年齢	65 歳未満
活動地域	静岡県浜松市	実施主体 【任意団体】	名　称：浜松市浜松手をつなぐ育成会 住　所：静岡県浜松市中区早出町 815－3 電　話：053-544-9010　　fax：053-544-9010		

活動概要

知的障害は体験することができないため、その理解には、知的障害のある人たちと触れ合うことが大切である。

そのため、中学生以上の青少年を対象として、障害特性や障害のある児童・人に対する接し方、ボランティアとしての心構えなどの研修とともに、主に知的発達障害のある児童・人が参加する催しのボランティアや授産施設での作業ボランティアを実習として実施し、ボランティアリーダーの育成研修を行っている。

＜活動内容＞

・初級コース（主に中学生以上を対象、研修 18 時間、実習 27 時間）
　修了者は、静岡県青少年指導者（初級）に認定される。定員 30 名。

・中級コース（初級取得者は、研修・実習 50 時間以上。初級資格のない人は、研修・実習 70 時間。）
　修了者は、その後1年間の積極的な活動で静岡県青少年指導者（中級）を認定される。定員 30 名。

・活動期間：6～12月

・参加費：初級 1,000 円、中級 3,000 円

活動を始めた背景・経緯

10 年前から本事業を始めた。当時は、特別支援学級の設置校が市内小・中学校 96 校中 24 校、知的障害のある児童・生徒を対象とした特別支援学校は1校であり、約4分の3の児童・生徒は、障害のある同世代の子どもと触れ合うことなく大人になっていく状況であった。しかしながら、特に、知的障害の理解には触れ合うことが重要であることから、多感な世代の若者に、障害のある児童・人と触れ合う機会を作るために始めた。

活動目的

知的発達障害のある児童・人に対する接し方や、その障害及び福祉についての理解を深めてもらうなど、福祉ボランティアリーダーとしての知識と、技術を身に付けるとともに、青少年の社会参加の機会と活躍の場を提供し、心身ともに健康な青少年リーダーを育成する。

活動の成果又は効果

本事業は今年度で 10 年間継続しており、受講生は約 500 名となっている。

受講修了後は、育成会の登録ボランティアとして後輩を指導している人たちも多く、さらには、特別支援学校の講師や福祉関係の職業に就いた人なども少なくない。

また、障害のない同世代の人たちと触れ合う機会の少ない知的障害のある児童に、学校では見られない良い反応が表れてきている。

活動を継続する上で工夫した点

本事業を静岡県青少年指導者認定事業とし、受講生には県の認定書が取得できるようにした。したがって、講座についても充実した内容とするため、講師は障害福祉関係者、大学教授、救急救命法の実技指導は消防署員などにお願いしている。また、最終講義は公開講座とし、歴代の静岡県障害福祉局長や浜松市教育長、福祉部長などに、「障害福祉の現状と今後の展望について」と題して講演してもらうこととし、受講生だけでなく育成会会員も聴講できるスタイルをとっている。

また、実習先として育成会の各種行事を当てることで、育成会活動のボランティア不足を解消することにも繋がっている。

活動を継続する上での課題

受講生の募集に毎年担当者が苦労している。生徒･学生が主なため、学校の理解が重要となるが、学校によりボランティアに対する温度差が大きい。また、教育行政の校外活動における奉仕活動の位置づけの変化が、受講生の人数に敏感に表れる。心身ともに健康な青少年リーダーを育成するためには、教育行政や地域の人たちの理解を得ることが課題である。

共生社会実践活動として今後予定しているもの又は実施してみたいもの

知的障害のある人は、幼い時に触れ合った人たちのことはよく覚えている。成人した人たちが再会できるようなイベントなどを、将来のボランティアリーダーたちの企画で開催したいと考えている。

実施体制

- 研修担当 3 人（事業担当者（2 人）と登録ボランティア（37 人）の中から選任）、研修･実技講師（大学教授、福祉関係者、教育福祉行政関係者、消防署員、ボランティア実践者など）
- 療育施設、授産施設などの協力を得て実習を行っている。
- 年間活動経費：約 160,000 円（2008 年）

キーワード

福祉ボランティアリーダー、青少年健全育成、障害理解

35. 畑での野菜の栽培

活動分野	地域交流、生活支援	活動に参加している障害者			
		障害種別	知的	年齢	18～64 歳
活動地域	和歌山県西牟婁郡	実施主体【社会福祉法人】	名　称：社会福祉法人　南紀あけぼの園 住　所：和歌山県西牟婁郡上富田町岩田 2456－1 電　話：0739-47-4952　　fax：0739-47-3324		

活動概要

NPO 法人が耕作する畑作業に参加し、自然とのふれあいにより癒しを感じ、育てる楽しみの充実感を味わう。

畑は、施設の所有ではなく、NPO 法人より借地の提供を受けている。

耕作はボランティアが行い、概ね準備できた段階で、障害のある人と共に活動をする。

畝作り･種まき･収穫などにおいて、障害のある人とボランティアが共同で作業を行う。

作業は、ボランティアの個別の丁寧な関わりよって進められ、表情豊かに熱心に取り組めている様子がうかがわれる。収穫した野菜は、給食委託業者が購入し、施設給食の食材として食卓に上る。

販売の収益金は、参加した障害のある人に作業工賃として還元される。

活動を始めた背景・経緯

人の暮らしにおいて、自然に親しむことは欠かせないことであり、日中活動のひとつに園芸活動を取り入れたいとの想いがあった。

施設利用者の活動メニューの多様化を検討していたところ、NPO 法人より畑作業を提供したいとの申し出があり、定期的に継続した取組みを提供してもらえるとのことであり、協力と連携をお願いした。

活動目的

施設利用者の活動メニューの多様化、及びボランティアとの定期的な交流により、地域住民とのコミュニケーションを図る。

活動の成果又は効果

適度な運動による健康の維持等の身体的効果。

自然とのふれあいによる癒し、育てる楽しみの充実感をあじわう精神的効果。

人と出会うことの楽しさを味わい、ボランティアとの定期的な交流を図ることによる地域とのコミュニティづくりとなる社会的効果。

活動を継続する上で工夫した点

天候に左右され活動予定の変更により、他の活動の予定も変更を余儀なくされるなど職員配置に苦労しているが、参加した施設利用者の笑みに後押しされ、職員間の連携を図り畑作業を優先してきた結果、継続した取組みとして定着した。

活動を継続する上での課題

NPO 法人が借りた畑を提供してもらっているが、休耕地を借りて整地し土作りができた頃に貸主より返却の申し出があり、場所を転々とすることを余儀なくされた。用地の確保が課題。

共生社会実践活動として今後予定しているもの又は実施してみたいもの

施設内の陶芸作業場を活用しての地域住民との作品作りと、住民と共催の陶芸展の開催。

実施体制

施設利用者 15 名、NPO 法人「歩（あゆみ）の会」スタッフ 10 名。月 2 回程度。

キーワード

交流、ストレス発散、楽しみ

36. 花の栽培

活動分野	地域交流	活動に参加している障害者			
		障害種別	知的	年齢	18～64 歳
活動地域	和歌山県西牟婁郡	実施主体【社会福祉法人】	名　称：社会福祉法人　南紀あけぼの園 住　所：和歌山県西牟婁郡上富田町岩田 2456－1 電　話：0739-47-4952　　fax：0739-47-3324		

活動概要

NPO 法人・ボランティア・施設・保護者会との連携により、障害のある人とない人が一緒に、地域の美化活動を目的として、四季折々の花を咲かせる活動を行っている。

河川土手の四季の花苗の植替えにおいて、年間3回の定期的なボランティアとの交流がある。さらに、園内のプランターの植替えにおいてはガーデンサポーターを活用し、障害のある人の日中活動に園芸福祉を取り入れている。

施設としては、「よい環境により、よいサービスを提供する」という理念の下、地域と一体となって環境美化に努めることは、施設のサービスの質を上げることにも繋がると考えている。

活動を始めた背景・経緯

障害のある人の日中活動の一つとして園芸活動を取り入れ、地域の美化活動に継続的に取り組んできたが、施設内・外への花植えを行うに当たって、NPO のボランティアやガーデンサポーターに協力してもらえるようになり、現在の活動となった。

活動目的

花を育て美化に努めることを、利用者の日中活動として設定し、栽培の達成感を味わう精神的効果や、ボランティアとの協同作業を通じて、地域とのコミュニティづくりに繋がる社会的効果をねらいとする。

活動の成果又は効果

ウォーキング・散歩等、往き交う住民への癒やし効果と、地域住民の施設への理解・啓発に繋がり、きれいな花を咲かすことが施設利用者の自信と生活（活動）の意欲に繋がっている。

また、活動が充実してきたことにより、土手に四季折々の花が咲き地域の環境美化へと繋がっている。

活動を継続する上で工夫した点

当初は、施設自体の取組みとしていたが、NPO 法人に協力してもらい取組みの輪が広がってきている。

その後は、花苗の植替えの時期を、施設の面会日に設定し、施設利用者･保護者･職員･ボランティアが一丸となって取り組めるようにしたことで、地域貢献を目指すことにより、皆の意識が変わり、良い施設づくり（サービスの向上）にも繋がってきている。

NPO 法人は、「共同作業を通じて親睦を深め、互いに育みあい、街の花人を目指す」という理念をもって活動しており、花の苗の提供もしてもらっている。

活動を継続する上での課題

花壇の面積が広く、中庭に設置しているプランターの数も多いため、花苗が不足し経費がかさんでいる。また、花の苗の栽培を手伝ってもらうボランティアを必要としている。

共生社会実践活動として今後予定しているもの又は実施してみたいもの

地域住民と共に、地域環境の美化･保全を考える活動に積極的にかかわる。

ボランティアとの連携により、施設内を会場として「花まつり」を実施し、花苗の販売や施設の陶芸作品(植木鉢や花器)の販売することにより、施設を地域住民の交流の場として活用してもらいたい。

実施体制

施設利用者 30 名、保護者会 30 名、職員 30 名、NPO 法人「花つぼみ」ボランティアスタッフ 10 名。
年間3回。

キーワード

環境、花、地域貢献

37. 精神障害のある人と地域のボランティアとの交流会

活動分野	地域交流、文化芸術	活動に参加している障害者			
		障害種別	精神	年齢	18～64 歳
活動地域	徳島県 板野郡北島町	実施主体 【自治体】	名　称：北島町保健相談センター 住　所：徳島県板野郡北島町新喜来字南古田 88 番地1 電　話：088-698-8909　　fax：088-698-8925 URL　：http://www.town.kitajima.lg.jp		

活動概要

精神保健ボランティア養成講座の修了者を始めとする地域のボランティアの人たちと精神障害のある人が、書道、花瓶作り等のレクリエーションを通じて仲間づくりをし、交流を深める場を設け、精神障害のある人の自立と社会復帰を支援するとともに、精神障害のない人に障害への理解を深めてもらっている。

＜活動内容＞
- 書道、花瓶作り、折り紙、貼り絵（作品は、徳島県で開催された「目で見る精神保健展」に出品）
- 調理実習
- 活動日：毎月第二木曜日
- 参加人数（スタッフ除く）：精神障害のある人 10 人

活動を始めた背景・経緯

平成 10 年に、徳島保健所より、精神障害のある人の社会的交流をする場を作ることを目的とした組織（ソーシャルクラブ）の設立、活動の話があり、保健所の企画・運営で始まる。それと同時にボランティアの人たちに参加してもらい、学習会なども行ってきた。平成 14 年からは町独自の運営となり、現在に至る。

活動目的

作品づくりやレクリエーションなどに参加することにより、精神障害のある人の引きこもりや社会との関係の希薄を防ぐ。

また、ボランティアの人たちとの交流を持つことで、一般住民に対し精神障害のある人への理解と支援を形成していく。

活動の成果又は効果

精神障害のある人とボランティアの交流が深まり、なかには、違う活動で一緒に地域社会と交流をしている参加者もいる。
また、参加者間で情報交換し、作業所に通うようになるなど、互いに有意義な交流の場として活用できている。

活動を継続する上で工夫した点

・多くの人に参加してもらえるよう、毎回調理実習や様々なイベントを行い、参加を募っている。
・ただレクリエーションをするだけでなく、「目で見る精神保健展」に出展、参加することを目標として作業をすることで、会自体のモチベーションを上げるようにしている。

活動を継続する上での課題

ボランティアで参加している人が高齢になってきている。活動を継続していく上で、ボランティアの支援は必要不可欠であり、マンパワー作りが必要と感じている。

共生社会実践活動として今後予定しているもの又は実施してみたいもの

精神疾患を理解するための講演会、学習会を開催する。

実施体制

職員2人（常勤）　ボランティアスタッフ 16 人
「ラブハンズ北島」という平成 12 年4月に発足した精神保健ボランティアグループと連携し、イベントの共同開催を行っている。

キーワード

社会的交流、ボランティアグループ、地域支援

38. 地域住民の力を活かした集いの場＆暮らしの場「三原さん家」

活動分野	地域交流	活動に参加している障害者			
		障害種別	身体・知的・精神	年齢	65 歳未満
活動地域	福岡県 久留米市安武町	実施主体 【社会福祉法人】	名　称：社会福祉法人　拓く 住　所：福岡県久留米市安武町武島 468－2 電　話：0942-27-2039　　fax：0942-27-2086 URL　：http://www.h-polepole.com		

活動概要

拓くの後援会会員で、障害のある人の受入れにも理解のあった地域住民の自宅の広い空き倉庫を改造してケアホームにし、障害のある人に暮らしの場を提供するだけでなく、保護者や地域住民の集いの場としても開放している。

施設を提供してくれた地域住民宅はもともと地域の人の溜り場であったが、そこへ支え合いの機能を追加し、誰でも、世代、障害の有無、文化を問わず気軽に集え、助け合おうという気持ちが持てる場所を作った。

毎朝、近所の人(高齢者、子ども)がケアホームに集まり、障害のある人と地域住民が一緒にラジオ体操をしたり、近所の高齢者が夕食を一緒に食べるなど、障害のある人と地域の高齢者、子どもとのふれ合いの場となっている。

活動を始めた背景・経緯

障害のある人の暮らしの場（ケアホーム）を作るに当たり、従来のような障害のある人だけが集まる場ではなく、地域の高齢者、子どもなどいろいろな人が気軽に集えるような地域に根ざした場にしたいと考えた。

拓くの近所に住む後援会の会員である地域住民宅は、もともと地域の人の集いの場であり、障害のある人の受入れにも理解あったので、地域福祉の拠点となるようなケアホームをつくりたいと打診したところ、快諾されたことで、このような地域福祉活動（共生社会実践）が実現した。

活動目的

ケアホームが、障害のある人が集まる特別な場所ではなく、様々な地域住民と交わりながら地域に根ざした場所となることを目的とする。

また、集いの中からニーズを掘り起こし、地域にとって必要な活動を創意工夫し、拡大していくことで、自分たちの住んでいる地域で継続して暮らせる地域づくりを目指す。住民主体の地域福祉のあり方を示唆できるようなものにしたいと考える。

活動の成果又は効果

重い障害があっても、ラジオ体操に参加し、地域住民と自然に交ざり合ってお茶を飲み、一緒に食卓を囲んだりすることで、事業所の関係者にとどまらない交流の場ができている。この場を通して、障害のある人のサポートを高齢者がしたり、高齢者のサポートを障害のある人がしたりするなど、循環型の地域ケアが生まれつつある。また、多様な世代、立場の人々の集いの中で、様々な自発的な相談や解決が生まれており、インフォーマルな相談支援機能ができている。

活動を継続する上で工夫した点

・拓くの公益事業として、資金を貸し出したり、備品を提供したりするなど経済的なサポートを行い、施設提供者を始め地域住民の経済的負担・リスクが少なくなるように考慮した。
・まちづくり振興会、町内会との親密な連携を図っている。
・お祭り、クリスマス会、食事会などのイベントを一緒に楽しむ機会を多く設け、家族のような関係づくりを心がけている。
・定期的に地域福祉等の研修会や視察旅行を計画しモチベーションを高めている。

活動を継続する上での課題

このような地域福祉活動（共生社会実践）を推進していくには、集いの場と地域の人をつなぐ人、人と研修をつなぐ人などつなぎ役であるコーディネーターの役割が大きい。コーディネーターの拡充と育成が今後の課題である。

共生社会実践活動として今後予定しているもの又は実施してみたいもの

来年度は「地域食堂」として独居老人などに食事を提供する場を設ける予定である。独居老人など高齢者、子育て中の母親、在宅の障害のある人など地域で孤立しやすい人たちが気軽に立ち寄れる場所を創出することで、これまで以上に地域でのつながりをつくり出していきたい。

実施体制

・ケアホーム運営のための支援スタッフ　1、2人／日　管理人(施設提供者)　1人／日
・地域住民との連携は、施設提供者が主体となって行っている。
・その他、保育園など他機関と連携も視野に入れ実施体制を組み立てている。

キーワード

地域福祉、循環型、地域住民主体

39. ピアサポート事業

活動分野	地域交流 生活支援	活動に参加している障害者			
		障害種別	身体・知的・精神・発達	年齢	全年齢
活動地域	福岡県宗像市	実施主体 【社会福祉協議会】	名　称：宗像市社会福祉協議会 宗像市障害者生活支援センター 住　所：福岡県宗像市久原 180 番地 電　話：0940-34-2411　　fax：0940-37-1393		

活動概要

センター所属のピアサポーター（障害のある相談員）らが中心になって、障害のある人やその家族と地域の人たちが楽しく交流する事業を行っている。

障害のある人やボランティア、地域の人などが参加し、ピアサポーターとともに電車で博物館に出かけたり、買物をした材料で調理するなどの体験をし、また、風船バレーなどのスポーツ活動やレクリエーション活動、手話コーラスコンサートの開催などを通して、障害の有無に関わらず一緒に楽しみながら交流を深めている。

イベントの企画内容等については、ピアサポーターらが障害のある人やその家族の要望を取り入れながら、検討し実施している。

＜活動内容＞

・年3回程度実施。パソコン教室、手話教室については隔週開催。

・参加人数：障害のある人、ピアサポーター、ボランティア、地域住民を含め、内容により 20～100 人程度。

・参加費：無料。内容によっては実費負担あり（材料代・交通費・入場料等）。

活動を始めた背景・経緯

センターで実施しているピアカウンセリング（障害のある人同士での相談）を担っているピアサポーターらが、障害のある人とのネットワークや信頼関係の構築、仲間作り、ピアカウンセリングの周知などを目的に、平成 17 年度から事業を開始した。

活動目的

ピアサポーターと障害のある人が、事業を通じた交流により情報を共有し、ネットワークを構築することを目的として実施。

また、障害のない人との自然な交流を通じて、障害のある人と地域社会との関係を深めるとともに、自立生活に向けた生活技術の習得及び向上を目指す。

地域住民にも広く呼びかけ、地域で生活する障害のある人との関係を構築して、障害への理解を深めてもらう。

活動の成果又は効果

買物や調理、公共交通機関の利用などを経験することの少ない障害のある人が、ピアサポーターらと一緒に体験することで自信をつけ、家庭内での実践などにつながっている。

また、ピアサポーターと障害のある人との信頼関係やネットワークの構築も進み、障害のある参加者の増加や定着につながっている。

地域住民の参加も年々増加しており、障害についての理解やピアサポーターの活動の周知などにも広がりが見られるようになってきた。

活動を継続する上で工夫した点

地域住民の参加を促すことを目的に、実施場所については、各地域のコミュニティセンターを活用するなどしている。また、イベントの企画・進行に当たっては、様々な障害のある人たちも地域の人たちも誰もが楽しく参加できるよう配慮している。

手話コーラスコンサートの開催では、地域の幼稚園に協力を呼びかけることで、その家族の参加が促され、関わりの少ない人たちへの理解や周知を図る機会となるようしかけている。

活動を継続する上での課題

新たな参加者の拡大や事業の周知、ピアサポーターの人材確保など。

共生社会実践活動として今後予定しているもの又は実施してみたいもの

障害のある人の参画を更に促し、障害のある人自身が作り上げていけるようにし、そのためのサポートを、ピアサポーターや地域住民が担っていけるような取組み。

実施体制

宗像市障害者生活支援センター職員4人・ピアサポーター3人・ボランティア数人。

ボランティアセンター・地区福祉会・市内各福祉施設・学校等と連携し、開催内容によって適宜協力を得ている。

キーワード

ピアサポーター、地域交流